

1. 幼稚部の活動内容

幼稚部の活動においては、小学部以上のように教科はなく、もちろん教科書や教師用の指導書もありません。幼稚園教育要領のねらいに即しながら、幼児の実態を考慮し、季節のイベントや学校・学部の行事を取り入れ、幼児が興味をもち意欲的に取り組める活動を毎日工夫しています。現在、畑やプランターで野菜を育てており、毎日水やりをしながら生長を観察したり、できた野菜を収穫したりしています。もっと多く収穫できるようになったら、野菜を使って調理をします。また、校外学習で経験した買い物を生かし、お店屋さんごっこへと発展させる計画です。

「なかよしタイム」は、在籍する幼児全員で活動します。今週はグラウンドの築山で遊んだり、色水遊びをしたりしました。誕生会や行事の事前学習をすることもあり、学級の枠を超え集団で活動する時間も大切にしています。

2. ろう教育部門の取組

幼稚部ろう教育部門の取組を3つ紹介します。

1つ目は、日本語の基礎となる「見て・聞いて理解する力」と「自ら表現する力を育てる」こと、つまり言語指導です。

幼児教育は実際に体験すること、特に「遊び」を大切にしていますが、ただ遊ぶ、経験するだけでは一般の幼稚園や保育園と変わりません。まず教師の働き掛けを工夫したり補聴機器を有効に活用したりして、話者に注目し最後まで見る・聞くという基本的な姿勢を育てます。また音声だけでなく、手話や指文字など様々な手段を使って自分の思いを表現する力を伸ばすことができるよう、実態に応じた言葉掛けややりとりに努めています。

身の回りにある物、具体的な物や事柄の名称が分かり表現できる。そして、自分の経験を正しく相手に伝えることができるように、絵や写真、文字なども積極的に活用しています。

2つ目は、居住地の保育園・こども園・幼稚園における交流活動です。

幼稚部は在籍する幼児が少ないため、様々な友達との関わりや集団で行うゲームなど経験できないことがあります。そのため聾学校時代から、一時預かり制度を利用した交流活動を行っています。始める時期や行く頻度は様々ですが、学校の生活に慣れてから、週1回程度の交流を基本としています。担任も定期的に同行し、幼児を支援

したり園と情報交換したりしています。最近は、当校入学前から保育園などに在籍している幼児もいます。自宅がある市町村が認めると、入学後も引き続き園に在籍し、幼稚部と園の両方に通う生活を送っています。

3つ目は、保護者との連携です。

幼児のコミュニケーションの力を高めるためには、学校だけでなく、多くの時間を過ごす家庭での関わりも重要となります。そこで幼稚部では、可能な範囲での保護者の参観をお願いしています。保護者も一緒に活動する中でより良い関わりについて考えたり、学校で経験したことを家庭でもう1回経験させたりしてくれています。絵日記に書いて日本語で振り返ることもしています。また、教師と幼児のやりとりを参観し記録することで、幼児の実態を知り、次の課題を学校と家庭で共有しています。ただ、全ての時間を参観しているのではなく、活動の内容や幼児の発達段階に応じて、別室からの参観や送迎だけの日もあります。

少人数ではありますが実態が多様な幼児に適切に対応するためには、今後も教師の専門性が不可欠であると考えますが、担任だけが抱えるのではなく、幼稚部がチームとしてより良い支援を考え実践していきます。